

第一表 重要物資の国際比価 (31年10月末現在)

(注) 括弧内は前月比騰落

品目	単位	区	日本		米 国	英 国	そ の 他	
			邦貨建	外貨建				
織 維	綿糸(20番手)	封度	M	¥ 196.3	¢ 54.5(-4.8)	¢64.0~65.0(0)	¢ 60.7(+0.7)	¢香港39.9(-1.4)伊54.8(-0.7)
			E	190.8	53.0(0)			
	綿織物(2003)	碼	M	53.3	14.8(-0.6)	16.5(0)		香港14.2(+0.2)
			E	51.5	14.3(-0.7)			
人絹糸(ビス120D)	封度	M	247.0	68.6(-5.8)	86.0(0)	62.9(0)	伊 82.4(0)	
		E	183.6	51.0(0)				
スフ糸(30番手)	"	E	136.0	37.8(-3.9)	77.4(+1.2)	61.0(-2.0)		
鉄 鋼	銑鉄(鋳物用2号)	屯	Q	28,500	\$ 79.2(0)	\$ 62.2(0)	\$ 47.2(0)	ベルギー72.0(+5.0) フランス59.5(0)
			E	44,700	124.0(0)	111.9(0)	96.0(0)	西ドイツ95.0(+5.4)
	棒鋼(19ミリ)	屯	M	75,000	208.3(-50.0)	122.5(0)	119.5(0)	ベルギー103.0(0) 西ドイツ95.0(+5.4)
			E	54,000	150.0(0)			
厚板(12ミリ)	"	Q		50,700	140.8(0)	107.3(0)	93.8(0)	フランス113.0(0) 西ドイツ116.0(-2.0)
				58,700	163.1(0)	103.0(0)	103.3(0)	西ドイツ117.0(+7.5) フランス120.0(+5.0)
非鉄金属	電気銅	封度	Q	154	¢ 46.0(0)	¢ 36.0(-4.0)	¢	¢ベルギー 35.8(-2.7)
			M	191	52.9(-15.2)	35.2(-1.3)	36.6(-0.2)	
	電気鉛	"	Q	64	17.9(0)	15.8(0)	M14.7(+0.1)	Mメキシコ 14.5(+0.2)
			E	50~59	14.0~16.4(0)	13.5(0)	M12.5(+0.5)	Mメキシコ 12.3(+0.8)
	地金	"	Q	386	107.1(+3.8)	112.5(+9.9)	M110.0(+11.0)	Mシンガポール100.1(+4.8)
			E	91~100	25.2~27.7(+0.6~1.2)	27.1(0)	24.6(0)	カナダ 24.5(0)
セメント	屯	M	6,000	\$ 16.7(0)	21.0~23.5(0)	\$	\$西ドイツ16.5~18.3(0) フランス15.8(0)	
		E	6,300~6,750	17.5~18.8(0)		14.0(0)	西ドイツ13.5~14.5(0)	
化学製品	苛性ソーダ(固型)	屯	E	21,067	58.5(0)	42.0(-1.0)	52.0(-1.0)	西ドイツ47.0(-3.0) イタリア49.0(0)
			M	46,000	127.8(+1.4)	82.0(0)	78.0(0)	
	レヨンパルプ	Q	80,799	224.4~226.6(0)	CIF 209.0(0)		カナダ C I F 200.0(0)	
動植物製品	大豆原油	ドラム	M	28,000	77.8(+1.4)	51.5(0)	58.0(+2.0)	
			M	123	¢ 34.2(+4.8)	¢ 35.0(+3.1)	¢36.8(+5.0)	¢シンガポール 32.7(+3.5)
	生ゴム(RSS3号)	封度		77	21.3(-0.5)	14.5~16.0(-1.5)		
燃料	石炭(粘結炭)	屯	M	6,950	19.3(+0.5)	\$ 12.9(+0.4)		
			M	10,150	28.2(0)	C&F 34.4(+4.4)	20.2(0)	

備考

- 区分欄、Qは建値、Mは市中価格、Eは輸出価格。
- 織 維
 - 海外価格はロイター電などによる。
 - 香港綿布は2003番相当のもの。
 - 人絹糸海外価格は150D価格を採用(わが国での150Dの生産取引は僅少)
 - 英国のスフ糸は36番手単糸綿紡式によるもの。
- 鉄 鋼
 - 日本のQ(生産者価格)は銑鉄では富士製鉄11月積建値、鋼材では八幡製鉄12、1月積建値より全国平均品質銑鉄1,000円、鋼材1,300円をそれぞれ差引いて算出。
 - 海外は銑鉄
 - ベルギー 鋳物用高品質ミュッソン(基準地)渡し
 - フランス " " ロンアイ(")渡し
 - 英 国 ベーシック銑
 - 英国は公示価格よりわが国同除運賃を差引いて算出。
 - 米国は U.S スチール社発表値。
 - 西ドイツは公示価格から取引税4%を差引いた。
 - 厚板は米国、英国9~38ミリ、フランス9.5~25ミリ。ベルギーはトーマス鋼。

(7) 鋼板は米国1.7ミリ、英国3ミリ以下、西ドイツ、フランスには寸法=キストラそれぞれ7.93ドル、4.35ドルを加算。

4. 非鉄金属

- アルミの国内建値は精錬業者販売価格。
- 亜鉛、アルミ国内建値の安値は輸出原材料向け特価。

5. セメント

フランスは包装代を含まない。

6. 化学製品

- 苛性ソーダはアンモニア法製品価格。
- レヨンパルプ国内価格は7~12月建値。海外価格は7~9月CIF日本価格。

7. 動植物製品

- 生ゴムの英相場はRSS1号。
- 米国原皮鉛柄バックラースライト紐奇現物相場、国内相場は取引単位が枚数のため概算。

8. 燃料

- 内外とも約8,000 cal 国内炭は本州特定製鋼所向け31年度上期直売炭価。
- 重油の海外価格はニューヨークタンク車価格、わが国は大手筋鉄鋼メーカーの購入価格。

第二表

海外価格を100とするわが国価格指数の推移

(注) 備考は第1表に準ず。卸売物価指数は昭和25年6月基準指数の比較。

品目	区分	基準国	28年9月	29年9月	30年9月	30年12月	31年3月	31年6月	31年9月	31年10月
綿糸	M	米 国	105.3	90.5	83.9	76.2	83.0	87.0 ~88.3	92.7 ~91.2	85.2 ~88.8
綿織物	M	"	102.5	86.2	84.8	87.0	91.0	95.5	93.3	96.4
人絹糸	M	イタリ	91.9	66.7	65.5	77.5	83.3	91.0	90.3	83.3
スフ糸	M	英 国	74.2	57.5	59.7	65.7	61.7	69.8	66.2	62.0
棒鋼	Q	ベルギー	117.2	89.4	108.6	108.6	110.3	120.4	120.4	120.4
厚板	Q	西ドイツ	107.1	91.2	108.3	108.3	118.4	128.6	128.6	120.3
電気銅	Q	米 国	135.0	126.9	102.0	102.1	102.4 ~109.6	112.6	116.5	129.4
硫酸	E	西ドイツ	126.2	118.4	115.1	119.6	118.5	120.9	120.4	124.5
苛性ソーダ	M	英 国	179.1	136.9	134.1	146.2	155.4	153.6	162.1	163.8
レーヨンパルプ	Q	カナダ	123.4	116.8	115.4	115.4	109.5 ~111.0	109.5 ~111.0	112.2 ~113.3	112.2 ~113.3
大豆原油	M	米 国	121.0	182.9	185.3	164.4	129.2	148.4	148.3	151.1
生ゴム	M	シンガポール	115.1	115.0	110.9	100.0	103.4	103.6	100.7	104.6
原皮	M	米 国	172.3	149.4	138.9	136.3	121.7 ~125.3	132.7 ~141.3	136.3 ~124.6	146.9 ~133.1
卸売物価指数	{	米 国	141.0	136.0	133.4	134.2	134.6	135.4	138.5	—
		西ドイツ	130.8	126.1	122.5	121.7	122.8	126.1	129.1	—

解 説

10月中の海外市況は、月末近くに発生した中東情勢の緊迫化を主因に、総じて堅調味を加えた。主要商品についてみると、砂糖、原皮など極く一部に下落したのもあつたが、小麦、大豆油、羊毛、生ゴム、錫、亜鉛、石炭、鉄鋼などはいずれも騰貴し、また海上運賃もタンカーレートを中心に反発した。なお、米国ダウジョーンズ、英国ロイター両国際商品相場指数も29日以降急上昇し、月中それぞれ2.8%、1.7%の騰貴をみせた。

一方、わが国の市況は10月に入つて繊維、鉄鋼、非鉄とも高値は正にそれぞれ軟化し、ようやく中間的な小康状態を呈した。しかし中東問題ほつ発を契機に再び強調に転じ、更月後5日頃までの騰勢はかなり著しい。もつとも10月の卸売物価指数は、同紛争が月末近くに発生したため、その影響が現われるにいたらず、月初来の落勢がひびいて月中0.2%の下落となつている。

このため、国際比価関係は総じてやや改善の方向をみせた。しかし、更月後は6日までの米国ダウジョーンズ、英国ロイター両国際商品指数の動きは、ほとんど横ばいなし低落しているのに、わが国の主要商品は同日までのところ繊維にやや訂正安の動きがみられるのみで、その他は強調を呈しており、折角改善しかけた国際比価の先行きには注意を要しよう。

(1) 繊維 国内の繊維市況は、生産好調の一方実需筋の買気凡調から、月初来軟調をたどつてきたが、月末近くに至つて、中東情勢の悪化から思惑人気攪頭、人絹糸を

筆頭に綿糸、スフ糸、梳毛糸などいずれも急騰を演じた。もつとも月末の相場は月央相場の水準までもどした程度で、前月末に比較すればやや低い。

他方、海外価格は香港、イタリ綿糸、英国のスフ糸は微落、香港綿織物、米国スフ糸は微騰、その他はもち合いと区々ながら総じてもち合い圏内小浮動の域を出なかつた。この結果国際比価関係は、月末までのところでは綿糸、綿織物、人絹糸、スフ糸ともわが国の値下りを主因に対外割安幅を拡大した。なお、いわゆる二重価格の関係（国内価格に対し、輸出価格割安）は、国内価格より輸出価格の値下りが小幅にとどまつたため縮小し、スフ糸のごときはついに解消するに至つた。

(2) 鉄鋼 欧米主要国の国内価格は、原材料価格および賃金の上昇によつて軒並み値上りの傾向にある。すなわち、西ドイツでは10月22日以降トメ当り平均7.62ドル方の価格引上げを行い、ベルギーも当月から銑鉄と一部の厚板価格を引上げ、その他品種の値上げも検討中と伝えられる。また米英仏においても再引上げの気運が強い。

一方わが国の建値は6月以降据置、6月以降急騰を続けてきた市中価格も、緊急輸入を中心とする市況安定策が効を奏し、当月に入つてから大幅に反落（棒鋼50ドル下落）し、9月はじめ頃の水準に復した。

このため国際比価関係は久方ぶりで改善された。しかし、月末中東情勢の緊張を映じて市中相場は早くも再び騰勢に転じていること、輸出価格は依然として独歩高を呈していることなど楽観を許さないものがある。

(3) 非鉄 海外市況は引つづき需給緩和を映じて、

銅を中心に全般に軟調をたどり、米国大手三社の銅建値も下旬一割方引下げられた。しかし下旬に入り海外各地の政情不安から、ようやく下げ渋り模様となつたところへ、29日中東紛争のぼつ発となり、一般的に急反発、なかんずくロンドン市場における錫の大幅上昇が目立つた。

これに対しわが国は、海外安と大量の輸入入着から、銅、鉛などの市中相場の異常高値は急速に訂正に向い、中東紛争のぼつ発にもかかわらず、銅も従来の下げ足を止めた程度、また錫も小もどしの程度にとどまつた。この結果市中相場の国際比価は割高の幅を縮小した。

(4) **その他の商品** セメント、レーヨンパルプは内外とももち合い、比価関係にも変化はみられなかつたが、苛性ソーダは海外のもち合いに対し、わが国は騰貴し、硫酸

もわが国のもち合いに対し、英国、西独は値下りしたため、比価関係はやや悪化した。

原皮は内外とも下落したが、米国の値下りが大きいため、従来からの割高幅はかえつて増大。生ゴムはシンガポールの暴動と中東紛争から各国とも騰貴したが、わが国は米国、シンガポールよりも値上げ幅が大きく、比価関係は悪化、特にこれまで割安であつた米国に対しては割高に転じた。もつとも、この間英国の値上りは最も大きく、したがつて同国との比価関係はやや改善をみせた。大豆原油もわが国は大豆の不作を主因に、海外は中東紛争からいずれも堅調を示したが、英国の騰貴が大きいため、同国との比較では割高幅をやや縮小した。

日 誌 (昭和 31 年 10 月)

国 内

- | | | | |
|-----|---|-------------------------------|---|
| 3日 | ○政府、月別個人所得および国民資本勘定発表 | 2銭7厘、12月1日以降実施) | |
| 15日 | ○全銀協、支払準備制度の導入に関する見解発表 | 30日 | ○政府、米国投資家などの本邦法人株式取得に対する外資法上の現行制限を撤廃 |
| 22日 | ○政府、昭和30年度国民所得を発表 | ○政府、「地方財政の現況とその問題点(地方財政白書)」発表 | |
| | ○政府、「日本海運の現状(海運白書)」発表 | | ○鋼材倶楽部、内外プール鋼材緊急機関の業務開始 |
| 23日 | ○経団連会長、最近の投資活動は健全と言明 | ○商品相場は繊維、生ゴムなど国際商品中心に急騰 | |
| 26日 | ○本行政策委、外国為替引当貸付(カナダ国通貨表示)の利子歩合引上げ決定(現行日歩9厘5毛を1銭へ) | 31日 | ○政府、イスラエル、エジプト、ヨルダン、レバノン、シリアの5か国向け輸出手形保険の受付停止 |
| 29日 | ○全銀協、造船向け貸出金利1厘引下げ(現行日歩 | | |

海 外

- | | | | |
|-----|---|-------------------------------|--|
| 3日 | ○マクミラン英蔵相、欧州自由貿易地域に条件つき参加を考慮している旨言明 | 23日 | ○中共・パキスタン共同コミュニケに調印(中共訪問中のパキスタン首相、北京において) |
| 4日 | ○第2回国際砂糖会議、ジュネーブにて開会 | 24日 | ○米関税委員会、アイゼンハウアー大統領に別珍の輸入関税引上げを勧告 |
| 7日 | ○中共・ネパール経済援助協定調印(北京において)(3年間に6千万ルピー無償供与) | ○ハンガリー、イムレ・ナジ首相に就任 | |
| 10日 | ○九龍にて暴動発生 | ○カンボジア、サンユン新内閣成立 | |
| 11日 | ○ガット第11回年次総会、ジュネーブにて開会 | 26日 | ○南ヴェトナム新憲法発布 |
| 15日 | ○第2回国際錫理事会ロンドンにて開会 | 27日 | ○仏・西独間にザール協定成立 |
| | ○カンボジア、シアヌーク内閣総辞職 | 29日 | ○イスラエル軍エジプト領に侵入 |
| 18日 | ○カナダ中央銀行、公定歩合3.25%を3.5%へ引上げ | 30日 | ○英仏、イスラエルおよびエジプト政府に期限つき戦闘行為の停止ならびにスエズ地帯進駐を要求 |
| | ○台湾・フィリピン貿易協定調印(マニラにおいて) | ○エジプト、英仏の停戦要求ならびにスエズ地帯進駐要求を拒否 | |
| 20日 | ○オランダ銀行、公定歩合を従来の3.25%から3.75%へ引上げる旨発表(22日実施) | ○イスラエルのエジプト攻撃を討議するため国連安保理事会開催 | |
| | ○ポーランド各地で反ソデモ発生 | ○国連安保理事会で英仏、米国の停戦案に拒否権行使 | |
| | ○ポーランド、ゴムルカ統一労働者党第一書記に就任 | | |
| 23日 | ○ハンガリーで労働者、学生による反ソデモ発生 | | |